

神谷 直亮

国内最大級を誇る「危機管理産業展 2017 (RISCON2017)」と「テロ対策特殊装備展 2017 (SEECAT2017)」が、10月11日から13日まで、東京ビッグサイトで開催された。事務局の発表によれば、のべ来場者数は72,402人に達したという。すでに11月号のイベント・フォーカスで総括的なレポートがなされているが、本稿では、衛星通信関連の展示を中心にレポートする。

第13回を迎えた「RISCON2017」の会場には、スカパーJSAT、日本デジコム、ソフトバンク、日本無線、マウビック、ソリトンシステムズ、パナソニックなどがブースを構え、多彩なシステムと機器を出展した。

スカパーJSATは、耐災害性を誇る衛星通信のアンテナを3種類展示して注目を集めた。1種は、同社が出資者として名を連ねているKymeta社のアンテナである。今回は、ブースでの展示に加えて、屋外展示場でもトヨタのランドクルーザーの車上に搭載し、実際に衛星を使った通信デモを行った。搭載機器については、「アンテナのサイズは70cm、コーデックは富士通のIP900E/D、モデムはGilatのGLT1000」と説明していた。衛星名と伝送速度を聞いて見たら「JCSAT-5A衛星に送信パワー16Wでアップリンクし、上り3Mbps、下り6Mbpsを達成できている」との回答であった。ブースでは、実際に移動しながらGoProカメラで撮影したという録画映像をパソコンで見せていた。横浜衛星管制センターでJCSAT-5Aから受信して、インターネットでストリームした映像とのことであった。

2種目は、日本アンテナのBS受信用アンテナ(直径50cm)にEx-Birdサービス用のODU(HX200)を組み合わせた簡易VSATである。意表を突くこの組み合わせで「約3kgまで軽量化を図り、低価格化という目標を達成できた」と胸を張っていた。



写真1 スカパーJSATは、同社が出資しているKymeta社の平面アンテナを初出展して注目を集めた。

伝送速度を聞いて見たら「上り1.2Mbps、下り8Mbpsの伝送を実現できた」という。もう1種は、日本無線製の自動UAT対応小型可搬VSATシステムである。「JUM-5200」という型番のこのアンテナは、ユニークなワンタッチ自動衛星捕捉平面アレイアンテナで、液晶タッチパネルと音声ガイドダンスによる操作アシストが付いているのが特色と言える。

スカパーJSATのブースでは、上述した3種のアンテナに加えて、「EsBird」、「ExBird」、「SafetyBird」、「防サイネージ」の熱心な売り込みが行われていた。説明員によれば、「新しい防サイネージサービスの狙いは、平常時における地域情報の発信機能と災害時における衛星通信機能を組み合わせた点にある」という。さらに、子会社のJSATモバイルが、緊急時に欠かせないインマルサット用の衛星携帯電話「lsatPhone 2」、スカイウェブ社の双方向パケット通信機器「IDP-690/800」、ヒューズ社の小型衛星通信装置「9202」などを紹介していた。

日本デジコムは、スラーヤ社の衛星携帯電話「XT-PRO」、「XT-Lite」、「IP Plus」



写真2 ソフトバンクは、ロボットを駆使して、スラーヤ製の衛星携帯電話のPRを行って目を引いた。

に加えて、コプハム社製の衛星電話端末「Explorer 710」をブースに並べて売込みに余念がなかった。「XT-PRO」は、硬化ゴリラガラス製で最高の耐久性を誇っている。これに対し、「XT-Lite」はプラスチックボディで低価格化を狙ったものという。「IP Plus」は、スラーヤがインマルサットに対抗して売りに出した新型端末である。説明員によれば、最大444KbpsのIPデータ通信、最大384Kbpsのストリーミング通信を実現できる。「Explorer 710」は、第4世代のインマルサット衛星に対応する最新鋭の端末で、600Kbpsの高速帯域保証型のIPデータ通信サービスが受けられる。また、2台の端末を連結することで、1Mbpsを超える通信にも使えるのが特色である。

ソフトバンクは、同社らしく新型ロボットを駆使して、スラーヤ製の衛星携帯電話「SoftBank 201TH」と「SoftBank 501TH」のPRに挑戦していた。製品の見かけは、昨年と変わっていないので突っ込んでみたら「通話時間が6時間から9時間に、待ち時間が80時間から100時間に改善されている。さらに、マイクロUSB

による充電が可能になった」と強調していた。

日本無線は、基地局、コア網、電源などをワンボックスに集約した「可搬一体型LTEシステム」を紹介した。特筆すべき点は、同社の衛星通信対応のIP可搬局に接続することで「LTE + 衛星IP通信」システムとしても使える。

マウビックは、同社の目玉製品になっている「Mantis MSAT」と「ULTRA CODEC」を出展した。「Mantis MSAT」は、中継現場から衛星を利用して、手軽に映像送受信ができる超小型ポータブルDSNGである。「ULTRA CODEC」は、次世代映像符号化方式H.265/HEVCに対応し2Kはもちろん4Kもサポートしている。ソリトンシステムズは、「動く現場からのライブ中継」をキーワードに掲げて、NHKと共同開発した「スマートテレキャスターZao-S」のデモを実施し、パナソニックは、ウェアラブルカメラによる映像ソリューション「HDコムLive」を売り込んでいた。

一方、第11回となる「SEECAT2017」の会場では、内閣官房、防衛装備庁、公安調査庁などに交じって、エーティコミュニケーションズが孤軍奮闘していた。

エーティコミュニケーションズは、プリウスハイブリッド車をベースにした「エコSNG車」、超小型平面アンテナ「SATCUBE」、超小型可搬アンテナ「CCTシリーズ」、インマルサット・グローバル・エクスプレスに対応する「QCT90」など、最新鋭の製品をブースいっぱいに並べて来場者の注目を集めた。

「エコSNG車」には、コプハム社の「Explorer」アンテナ（直径1メートル）と、消費電力の低減を図れるリチウムイオンバッテリーが搭載されていた。小松原眞貴雄社長によれば、「アンテナを既存のスーリー（Thule）社製ルーフキャリアに組み込んで搭載することでコストの削減を図ったのと、電源をデータパス（DataPath）社製リチウムイオンバッテリーに切り替えたのが特色」という。バッテリーの連続駆動時間についての質問には、「最大4時間で、通常の収録には十分耐えられる」と答えていた。また、気になる価格に関しては、「2500万円以下に抑えることができ



写真3 エーティコミュニケーションズは、プリウスハイブリッド車をベースにしたエコSNG車を展示して来場者の注目の的になった。

た」と胸を張っていた。

超小型平面アンテナ「SATCUBE」は、スウェーデン製で重量はわずか6Kg、サイズは445mm x 280mm x 58mmでPC並みである。ブースの担当者は、「9月にアムステルダムで開催されたIBC2017の会場で、このアンテナをロンドンとアムステルダムに設置して通信デモを行った。インテルサットの衛星とiDirectのモデムを使ったこのライブデモで、上り1.4Mbps下り1.9Mbpsの伝送を実現できた」と強調していた。発売予定を聞いて見たら「すでに予約を受け付けており、免許を取得次第リリースする。年内には出荷できる見込み」と答えていた。

SWE-DISH社製「CCTシリーズ」は、直径75cm、120cm、200cmの3種があり、いずれもKu、Ka、Xバンドに対応できる。「QCT90」は、データパス社製の携帯用衛星通信装置で、インマルサットのKaバンドに加えて、他衛星のKuバンドにも対応が可能と説明していた。

この他、同社のブースでは、マイクロサット、超小型低消費電力SSPA、ウルトラポータブルアンテナも紹介された。

マイクロサットは、イスラエルのゲットサット社製で、インマルサット第5世代のKaバンド用に開発された超小型アンテナシステムである。才数が30cm x 22cmで、重量は4キログラムしかないが、送信、受信共に高性能を発揮できる。説明によれば、「InterFLATテクノロジーをベースに開発さ




写真4 エーティコミュニケーションズのブースでは、超小型平面アンテナ「SATCUBE」も来場者の興味をそそいでいた。


れ、米国ではすでに軍事通信に使われている」という。伝送速度を聞いてみたら、「10Mbpsを達成できている」と答えていた。

超小型低消費電力SSPAは、ミッション・マイクロエーブ製で100Wと200Wの2種がある。手軽に持ち運べるので、「専用のアタッチメントを使って可搬局に接続し、導波管口を極力抑えた通信が可能になる」と熱心に売り込んでいた。

携帯電話回線を使用する通信システムに関しては、昨年の「LiveU Xtender」に代わって今年は「TVU One V2」を紹介していた。従来のバックバックタイプと比較して約80%のサイズダウンをしているにもかかわらず、同等レベルのパフォーマンスができるというのが特徴である。ちなみに「本体のみの重量は1kg、内蔵バッテリー、ショルダーバッグ込みで1.6kg」とのことであった。

Naokira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト






HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

http://www.bizsat.jp

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m以下（地下駐車場可）
3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ポール4m 搭載
強化サスペンション
国内（100V）海外（240V）対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション



設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

